

京都府の地震活動

令和8年（2026年）7月

第 39 巻 7 号

京都地方気象台

目 次

震央分布図、概況	・・・ 1
震央分布図、断面図	・・・ 3
京都府で震度 1 以上の揺れを観測した地震の震度一覧表	・・・ 4
京都府で震度 1 以上の揺れを観測した地震の震度分布図	・・・ 5
【地震一口メモ】～8月26日は「火山防災の日」です～	・・・ 8

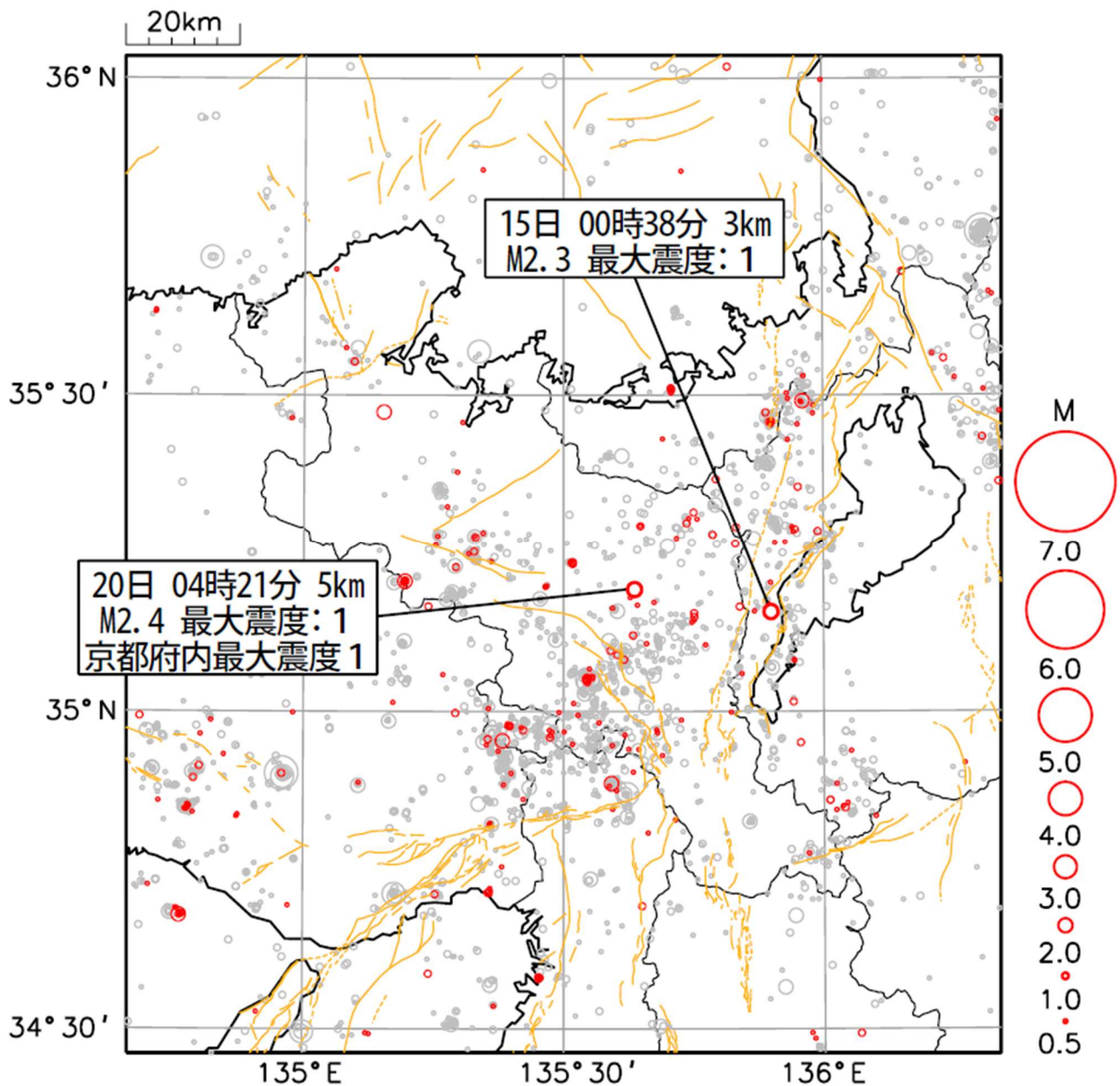
『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

震央分布図（マグニチュード 0.5 以上、深さ 0～80km）



- ・（2025年 8 月 1 日～2026年 7 月 31 日、深さ 0～80km、M $\geq$ 0.5）
- ・2026年 7 月の地震を赤く表示（総数264）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度 1 以上を観測した地震には、日時、深さ、マグニチュード（M）、最大震度及び京都府内で震度を観測した地震については京都府内最大震度を付記。
- ・オレンジの線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

概況

7 月中、震央分布図内で観測したマグニチュード 2.0 以上の地震は 8 回、震度 1 以上の揺れを観測した地震は 2 回でした（6 月はそれぞれ 11 回、5 回）。

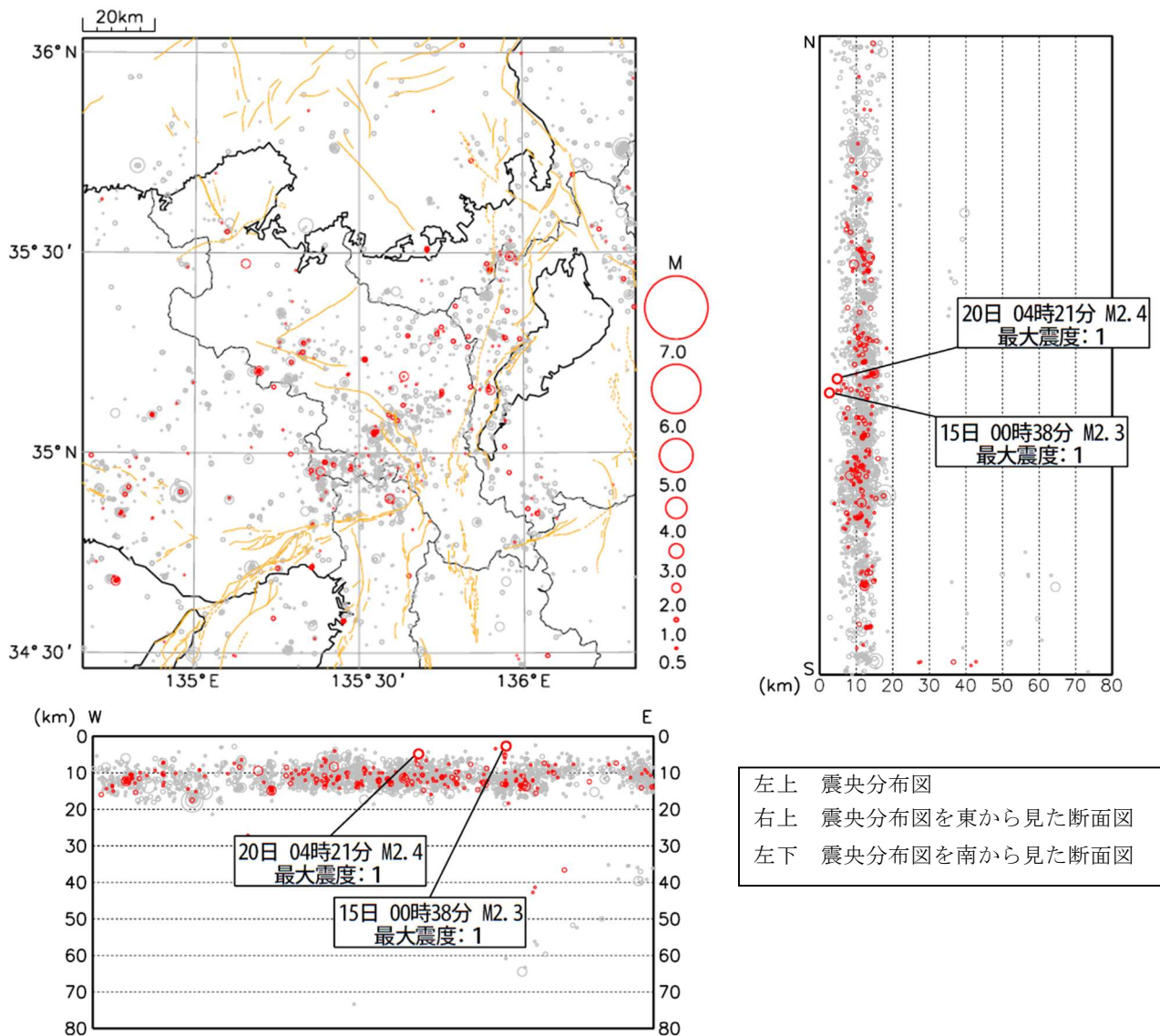
京都府内で震度 1 以上を観測した地震は 3 回でした（6 月は 5 回）。

9 日 21 時 58 分和歌山県南方沖の地震（領域外：深さ 25km、M4.7）により、京都府京都市伏見区、八幡市、南山城村で震度 1 を観測したほか、東海・近畿・中国・四国地方にかけて震度 3～1 を観測しました。

20 日 04 時 21 分京都府南部の地震（深さ 5 km、M2.4）の地震により、京都府京都市右京区で震度 1 を観測しました。

28 日 16 時 27 分熊本県熊本地方の地震（領域外：深さ 16km、M7.1）により京都府京丹後市、与謝野町、京都市下京区・南区・伏見区・山科区・西京区、宇治市、長岡京市、八幡市、久御山町で震度 1 を観測したほか、東海・甲信越・北陸・近畿・中国・四国・九州地方にかけて震度 7 ～ 1 を観測しました。

震央分布図、断面図（マグニチュード 0.5 以上、深さ 0～80km）



- ・（2025年 8 月 1 日～2026年 7 月 31 日、深さ 0～80km、 $M \geq 0.5$ ）
- ・2026年 7 月の地震を赤く表示（総数264）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度 1 以上を観測した地震には、日時、マグニチュード（M）、最大震度を付記。
- ・橙色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は、沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

京都府で震度 1 以上の揺れを観測した地震の震度一覧表（2026 年 7 月）

番号	観測日時		震央地名	北緯	東経	深さ	規模
	月 日	時 分		(度分)	(度分)	(km)	(M)
①	7月 9日	21時58分	和歌山県南方沖	33° 17. 8'	135° 02. 9'	25	4. 7
②	7月20日	4時21分	京都府南部	35° 11. 5'	135° 38. 1'	5	2. 4
③	7月28日	16時27分	熊本県熊本地方	32° 37. 5'	130° 40. 7'	16	7. 1

地域	震度観測点	所属	各地の震度		
			①	②	③
北 部	福知山市内記	気	-	-	-
	福知山市長田野町	防	-	-	-
	福知山市三和町千束	自	-	-	-
	福知山市夜久野町額田	自	-	-	-
	福知山市大江町河守	自	-	-	-
	舞鶴市下福井	気	-	-	-
	舞鶴市浜	防	-	-	-
	舞鶴市北吸	自	-	-	-
	綾部市若竹町	自	-	-	-
	宮津市柳縄手	自	-	-	-
	伊根町亀島	防	-	-	-
	伊根町日出	自	-	-	-
	京丹後市弥栄町吉沢	気	-	-	-
	京丹後市久美浜町広瀬	防	-	-	-
	京丹後市峰山町	自	-	-	-
	京丹後市大宮町	自	-	-	-
	京丹後市丹後町	自	-	-	-
	京丹後市久美浜市民局	自	-	-	-
	京丹後市網野町	自	-	-	1
	京丹後市弥栄町溝谷	自	-	-	-
	与謝野町加悦	自	-	-	-
	与謝野町岩滝	自	-	-	1
	与謝野町四辻	自	-	-	-
南 部	京都北区大宮西脇台町	自	-	-	-
	京都上京区薮ノ内町	自	-	-	-
	京都左京区広河原能見町	防	-	-	-
	京都左京区田中	自	-	-	-
	京都中京区西ノ京	気	-	-	-
	京都中京区河原町御池	自	-	-	-
	京都東山区清水	自	-	-	-
	京都下京区河原町塩小路	自	-	-	1
	京都南区西九条	自	-	-	1
	京都右京区京北周山町	自	-	1	-
	京都右京区太秦	自	-	-	-

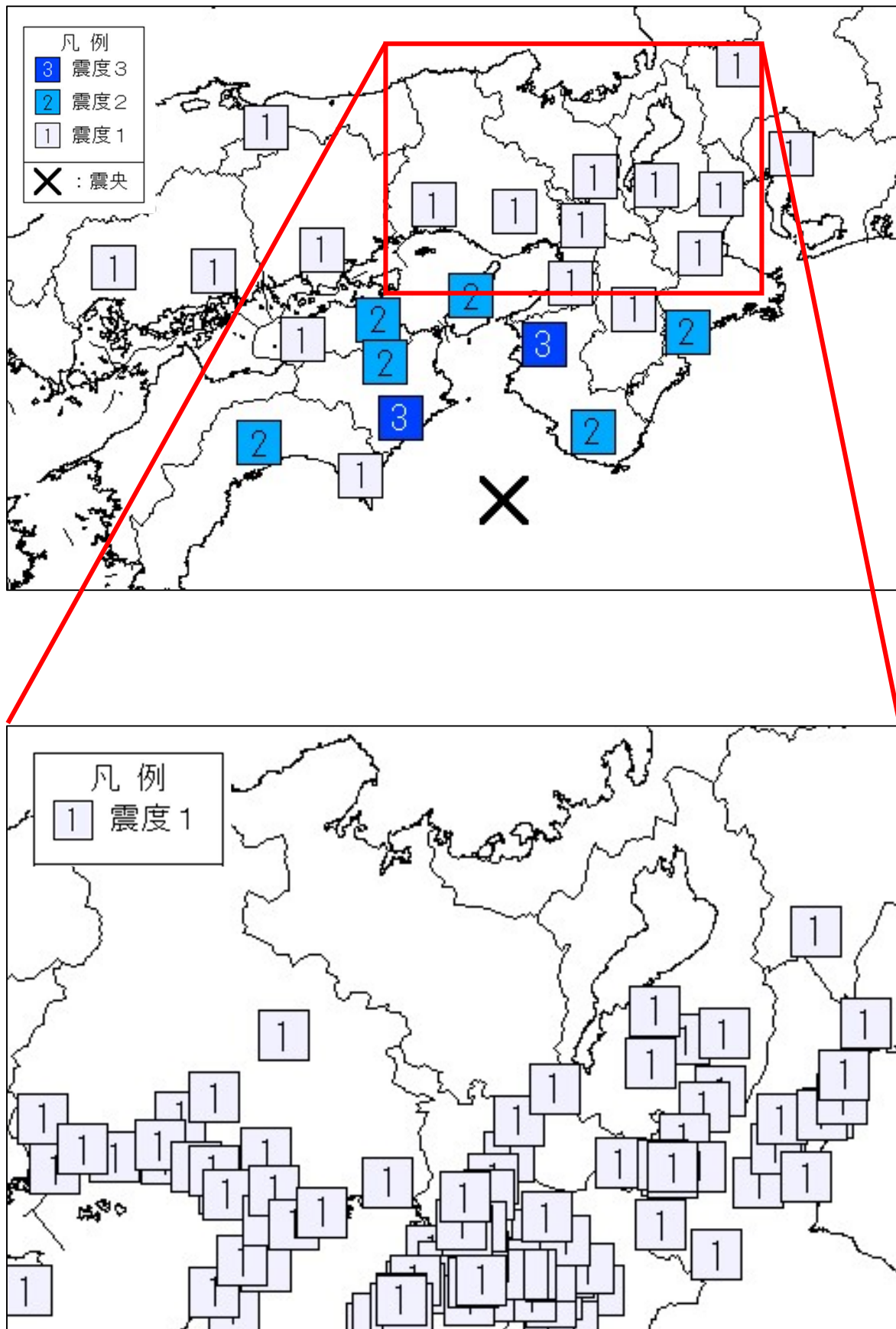
地域	震度観測点	所属	各地の震度		
			①	②	③
南 部	京都伏見区竹田	自	-	-	1
	京都伏見区醍醐	自	1	-	1
	京都山科区安朱川向町	防	-	-	-
	京都山科区西野	自	-	-	1
	京都西京区桧原	自	-	-	1
	京都西京区大枝	自	-	-	-
	宇治市宇治琵琶	気	-	-	1
	宇治市折居台	防	-	-	-
	亀岡市安町	気	-	-	-
	亀岡市余部町	防	-	-	-
	城陽市寺田	自	-	-	-
	向日市寺戸町	自	-	-	-
	長岡京市開田	自	-	-	1
	八幡市八幡	自	1	-	1
	大山崎町円明寺	自	-	-	-
	久御山町田井	自	-	-	1
	京田辺市田辺	自	-	-	-
	井手町井手	自	-	-	-
	宇治田原町立川	自	-	-	-
	笠置町笠置	自	-	-	-
	和束町釜塚	自	-	-	-
	精華町南稲八妻	自	-	-	-
	南山城村北大河原	自	1	-	-
	京丹波町坂原	気	-	-	-
	京丹波町橋爪	自	-	-	-
	京丹波町本庄	自	-	-	-
	京丹波町蒲生	自	-	-	-
	南丹市美山町島	自	-	-	-
	南丹市日吉町保野田	自	-	-	-
	南丹市八木町八木	自	-	-	-
	南丹市園部町小桜町	自	-	-	-
	木津川市加茂町里	自	-	-	-
	木津川市木津	自	-	-	-
	木津川市山城町上狛	自	-	-	-

注 1：所属のうち、「気」は「気象庁」、「防」は「国立研究開発法人防災科学技術研究所」、
「自」は「自治体」を示しています。

注 2：番号①②③の数字は、7 月に京都府内で震度 1 以上の揺れを観測した地震番号を表
しています。

京都府で震度 1 以上の揺れを観測した地震の震度分布図（2026 年 7 月）

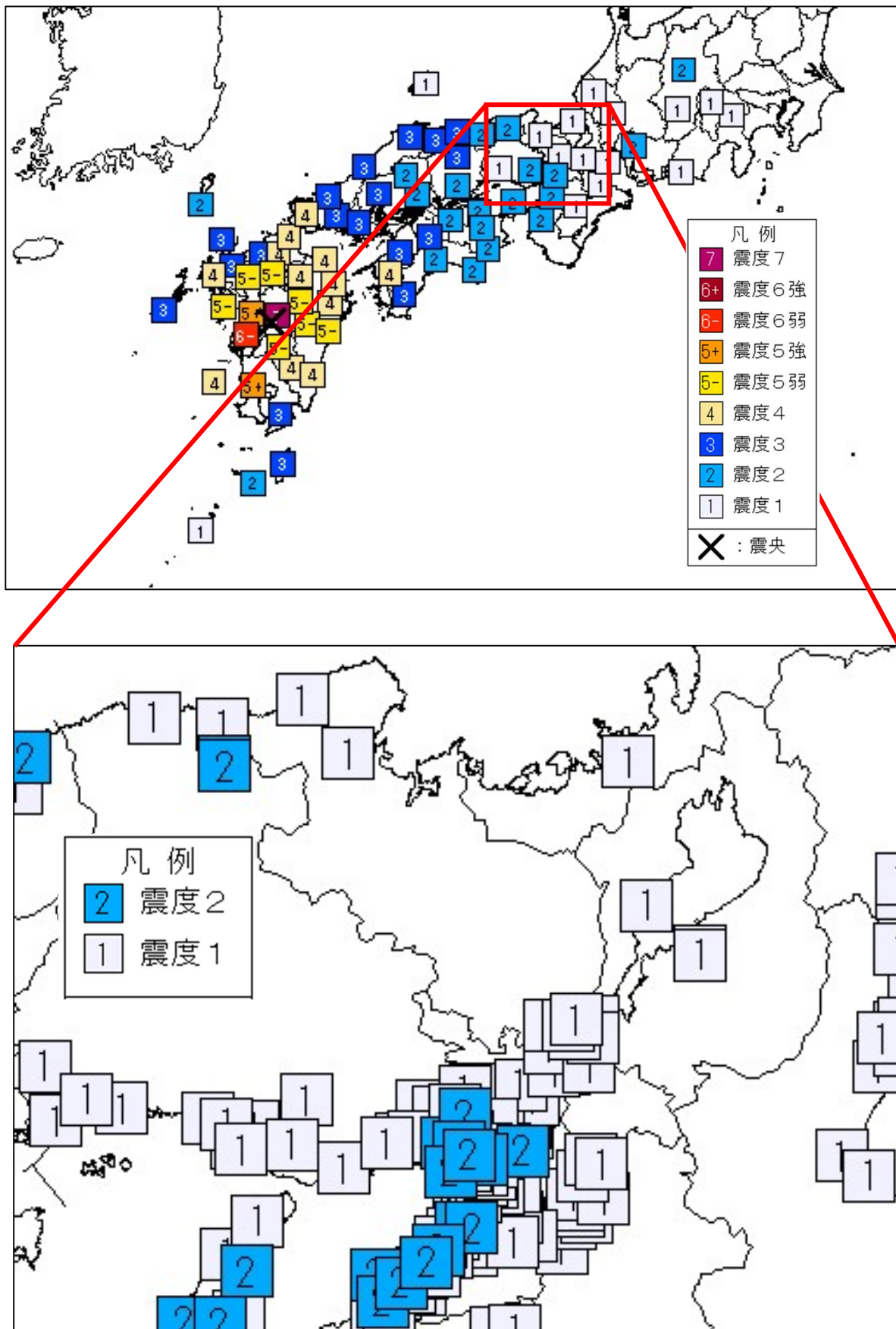
- ① 7 月 9 日 21 時 58 分 和歌山県南方沖の地震(深さ 25km、M4.7)の震度分布図(上図：地域別、下図：観測点別)



② 7 月 20 日 4 時 21 分 京都府南部の地震(深さ 5 km、M2. 4)の震度分布図
(観測点別)



③ 7 月 28 日 16 時 27 分熊本県熊本地方の地震(深さ 16km、M7.1)の震度分布図(上図：地域別、下図：観測点別)



【地震一口メモ】

～8月26日は「火山防災の日」です～

「火山防災の日」制定

令和5年(2023 年)、活動火山対策特別措置法(活火山法)の一部が改正され、国民の間に広く活動火山対策についての関心と理解を深めるため、8月26日を「火山防災の日」に制定しました。火山防災の日には、防災訓練等その趣旨にふさわしい行事が実施されるよう努めることとされています。8月26日を「火山防災の日」とした理由は、1911年(明治44年)8月26日に、浅間山に日本で最初の火山観測所が設置され、器械を用いた近代的な観測がはじまったことから、この日を「火山防災の日」とすることになりました。



浅間火山観測所 (1913 年)

気象庁が行っている火山防災

火山防災は、火山で起きる現象が、人々の暮らしや命に被害を与えることを防ぐことです。火山で日々起きている現象は、必ずしも常に被害を与えるわけではありませんが、それが通常より活発になった場合には、被害を防ぐための行動をとらなければなりません。

1 火山防災情報の発表

気象庁は、みなさんが危険を避け安全でいられる行動をとれるよう、火山防災情報を各火山に発表しています。火山防災情報には、噴火の発生を知らせる「噴火速報」、噴火に伴って、生命に危険を及ぼす火山現象の発生が予想される場合や、その危険が及ぶ範囲の拡大が予想される場合に、「警戒が必要な範囲」を明示して発表する「噴火警報」などがあります。

2 火山観測

日本には、全部で111の活火山があります。気象庁では、平常時と比べて異変がある場合や実際に噴火が起きた場合に、報道機関・都道府県・市町村などを通じて、住民や登山者のみなさんに火山防災情報をお知らせします。

なかでも、特に活動が活発な火山などの51の活火山の観測には、様々な種類の機器をたくさん火山の近くに設置して使っており、夜間休日も職員がリアルタイムの観測データを解析しています。この他にも、大きな現象があった際には、職員が臨時で現地調査に行くこともあります。

このように気象庁では、みなさんが危険を避け安全でいられるよう、火山防災業務を休むことなく行っています。気象庁が出している火山防災情報を、ぜひご活用ください。

詳しくは気象庁ホームページ「火山防災の日」特設サイトをご覧ください。



<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/kazanbosai/index.html>